

豊月(ほうげつ)

登録番号：第3946号

登録年月日：平成6年3月14日

登録者：農林水産省果樹試験場
(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：壽 和夫 佐藤義彦 阿部和幸 齊藤寿広

大村三男 梶浦一郎

緒方達志 小園照雄

清家金嗣 町田 裕

栗原昭男 志村 勲

来歴：「晩三吉」と「75-2(二十世紀×リ-14)」の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は強く、「晩三吉」程度である。新梢は太く、淡緑褐色を呈し、その発生密度は粗である。えき花芽の着生は少ないが短果枝の着生は多く、その維持は容易である。樹は外観上、母親品種の「晩三吉」に似る。

開花期は遅く「幸水」、「晩三吉」とほぼ同時期である。「幸水」、「おき二十世紀」、「秀玉」、「新星」、「新高」等と交雑和合性である。

■果実特性

果形は円形で完熟した果実の果皮色は黄赤褐色である。有てい果の発生はほとんどなく、裂果も認められない。一果重は500~600gで「晩三吉」より小さいが「豊水」よりも大果である。果肉は白色で緻密であり、果肉硬度はおよそ3.5~4.5ポンドで「晩三吉」より軟らかい。果汁の屈折計示度は12.0%前後で「晩三吉」と比較して約1%高く、「幸水」、「豊水」と同程度である。果汁のpHは4.4前後で食味上、多少の酸味を感じるが渋味は感じない。収穫期はおおむね10月中下旬である。また、貯蔵性は25℃で10~20日程度で同時期に収穫される晩生品種と比較してやや短い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病に対しては抵抗性を示し、えそ斑点病には病徴非発現性である。黒星病やその他の病害に対しては赤ナシの慣行防除で対応可能である。

本品種は心腐れおよびみつ症の発生を認めることがあるのでみつ症が発生しやすい地域での栽培には注意が必要である。

本品種は成熟期まで果面の緑色が強く残るので外観による収穫期の判定が難しい。一方、収穫期には落果が認められ、収穫が遅れた場合にはその発生が著しい。ただし、早採り果は糖度が低く、酸味が強いうえに肉質も粗く、食味が劣るので適期収穫に注意することが重要である。

■地域適応性

本品種は我が国のナシ栽培地帯のほぼ全域に適応する晩生品種として普及が期待される。特に赤ナシ栽培地帯では「幸水」や「豊水」の収穫労力の分散に貢献すると考えられる。また、同時期に収穫される晩生品種と比較して果実品種が秀逸であることから晩生品種の栽培が比較的多い西南暖地での普及が期待される。

(正田守幸)